



応用生態工学会ニュースレター  
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No.80

2018 (平成 30 年) 年6月4日 (月) 発行

[発行所] 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室  
TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) HP : <https://www.ecesj.com/>

[発行者] 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 北村 匡, 事務局長 青江 淳)

1	はじめに.....	1
2	応用生態工学会第 22 回東京大会 開催案内 .....	2
3	第 11 期各委員会委員決まる .....	8
4	2018 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告 .....	11
5	行事開催報告	
5.1	地域勉強会 in 福井	
	—グリーンインフラの推進に向けて—開催報告 .....	11
6	学会連続セミナー「第 5 回 未来の環境を語り・考える会」開催報告 .	15
7	理事会・幹事会報告	
7.1	第 92 回理事会報告 .....	17
8	2017 年度行事経過と今後の予定 .....	19
9	事務局より .....	22

## 1 はじめに

今年度最初のニュースレターとなります。学会第 22 回大会の開催案内、第 11 期各委員会委員、2018 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

### 学会第 22 回大会の開催案内を掲載しました

本年 9 月 20 日 (木) ~ 9 月 23 日 (日) の日程で第 22 回大会が東京工業大学大岡山キャンパスで開催されます。

この大会では、研究発表、自由集会、公開シンポジウム、エクスカージョン等を計画しています。  
研究発表、分科会・自由集会、企業展示の申し込みは、いずれも 6 月 30 日 (土) が締切りです。

### 第 11 期各委員会委員の名簿を掲載しました

第 10 期の各委員会委員の任期が 2018 年 3 月 31 日で満了となるため、学会規約第 18 条第 2 項の規定

に基づいて、会長から第11期の各委員会委員について委嘱を行いました。

第11期の各委員の任期は、2018年の各委員の所属する機関の承認日から2020年3月31日までです。

### 学会連続セミナー「第5回 未来の環境を語り・考える会」の開催報告を掲載しました

応用生態工学会では、賛助会員をはじめとする会員の皆様が、環境に係る行政や学識者と意見交換を行い、日ごろの事業や研究、将来の国土保全に役立てていただきたいと考え、平成27年12月より連続セミナーを開催しています。今回は第5回目となり、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 奥田晃久河川環境保全調整官から、「河川環境の整備・保全、河川行政が建設コンサルタントに望んでいること」についてご講演いただきました。

### J-STAGEでの論文公開の原則（論文掲載後2年間は会員以外には非公開）の廃止に至る審議結果を掲載しました

7.1 第92回理事会報告を参照ください。

## 2 応用生態工学会 第22回東京大会 開催案内

### 応用生態工学会 第22回大会開催案内

2018年（平成30年）9月20日（木）～9月23日（日）

第22回総会・研究発表会・自由集会・分科会（特定テーマ・セッション）・公開シンポジウム・エクスカージョン

応用生態工学会では、2018年（平成30年）9月20日（木）～9月23日（日）に東京工業大学大岡山キャンパスにて第22回大会を開催します。

**本大会実施に向け、大会参加と研究発表の受付を開始します。6月30日（土）が研究発表申込と研究発表要旨原稿提出の期限です。どうか奮ってお申込みください。なお、研究発表要旨原稿は研究発表申込と同時に提出していただきますのでご注意ください。**

研究発表では、従来どおり研究成果の報告だけでなく、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。また、テーマを絞って議論ができるよう、分科会や自由集会を準備いたします。議論したいテーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画・提案をお待ちしております。また、今大会では、前回大会に引き続き、賛助会員による機材、技術等の展示コーナーを設けます。その申込み受付も始めました。

9月23日（日）には、公開シンポジウム「(仮題)ダム湖や周辺環境の保全と再生に向けてーダム再生ビジョンと環境保全ー」を開催します。講演者等については現在調整中です。このシンポジウムは河川基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

エクスカージョンは9月20日（木）に予定しております。行先は企画中です。詳細は後日お知らせします。

### 1. 大会概要

#### 【日程】

第1日目 9月20日（木）：エクスカージョン

第2日目 9月21日（金）：研究発表（ポスター発表）、分科会、自由集会

第3日目 9月22日（土）：研究発表（口頭発表）、分科会、自由集会、懇親会

第4日目 9月23日（日）：午前：役員会・総会、午後：公開シンポジウム

ースケジュールは変更することがあります。詳細なスケジュールは、ホームページ（7月下旬）、ニュースレター

No. 81 (7月下旬発行) でご案内します。ー

【会場】

研究発表・総会・公開シンポジウム:

**東京工業大学大岡山キャンパス西9号館**

住所: 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

URL: <https://www.titech.ac.jp/maps/>

<交通>

【最寄駅】

大岡山駅 (東急大井町線・目黒線)  
(急行停車駅) 下車徒歩1分

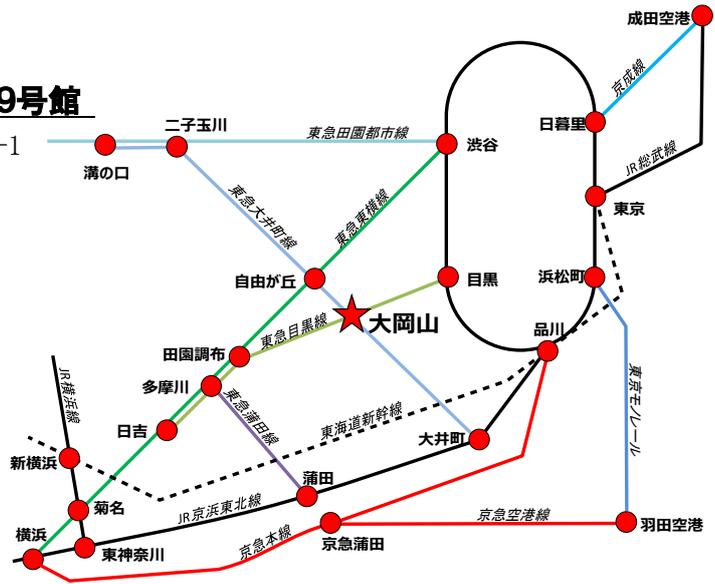
主要駅からの所要時間目安

東京駅から約30分

JR京浜東北線・東急大井町線経由

羽田空港から約50分

東京モノレール・JR京浜東北線・東急大井町線経由



2. 公開シンポジウム

【テーマ】

(仮題) ダム湖や周辺環境の保全と再生に向けてーダム再生ビジョンと環境保全ー

【企画のねらい】

ダムは近年の気候変動の顕在化による洪水や渇水リスクの増大に対応する重要なインフラですが、環境への影響もあり、アセスメントに基づく様々な環境保全措置が実施されています。ダムの機能と生態系保全を両立させるため、ダム湖やダム下流の河川環境のより適切な管理が求められています。そこで公開シンポジウムを実施し、これらの課題に関する国内外の事例・知見を総括し、今後の課題や展望を議論します。

【会場】

東京工業大学大岡山キャンパス 西9号館 2F デジタル多目的ホール

3. 研究発表募集

第22回大会における研究発表の受付を開始します。発表方法は、「ポスター発表」と「口頭発表」とします。下記要領に基づき応募してください。なお、「研究発表申込」と同時に「研究発表要旨原稿」(A4版1ページ)を提出していただきます。

〔1〕研究発表内容

応募できる研究発表の内容は、応用生態工学に関する研究や事例の報告およびその他です。発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、研究報告が予報的な内容であっても構いません。

〔2〕発表方法

応募にあたっては、「ポスター発表」か「口頭発表」のいずれを希望するか明記してください。応募状況によっては、大会実行委員会にて変更をお願いする場合があります。

〔3〕発表時間

口頭発表の発表時間は、1課題当たり15分(発表12分、討論3分)程度で、申込数により決定します。

#### 〔4〕研究発表申込・研究発表要旨原稿提出

**研究発表申込と研究発表要旨原稿提出は、6月30日(土)17:00までを厳守してください。**なお、締切当日は申し込みが殺到し、大会ホームページからのweb申込でも処理にお時間がかかることがあります。余裕を持った申込にご協力ください。

研究発表は、以下の内容について、応用生態工学会ホームページまたは電子メールでお申し込みください。また、同時に研究発表要旨原稿(A4版1枚)を大会事務局へ提出してください。原稿は、応用生態工学会ホームページの研究発表要旨原稿サンプルを参考に作成してください。

なお、ポスター作成要領、口頭発表要領および関連スケジュールを7月下旬に応用生態工学会ホームページにアップロードする予定です。

大会事務局の電子メールアドレス：tokyo\_22th@ecesj.com

#### <申込記入事項>

1. 発表者名(フリガナ)および連名者名(フリガナ)と各々の所属(会員番号)  
(会員番号：連名者が非会員である場合、番号は不要)

2. 研究発表題目

3. 連絡先(〒, 住所, 氏名, TEL, FAX, E-mail)

4. 研究発表概要(和文200字程度)

5. 希望する発表形態(「ポスター発表」または「口頭発表」)

6. 研究報告・事例報告の別

7. キーワード(調査地域・調査対象を含め5つ程度)

[調査地域(例)]

河川, 湖沼, ダム貯水池, 汽水域, 海域, 森林, 水田, 畑地, 道路, 都市, 農村等

[調査対象(例)]

生態系・景観, 陸上植物, 陸上動物, 水生植物, 底生動物, プランクトン, 鳥類, 魚類等

8. 発表賞の審査対象となる希望の有無

発表賞の審査対象になることを希望するか否かをお知らせください。

なお、審査対象要件は以下のとおりです。

- 1) 若手研究者(学部学生, 大学院生, ポスドク等の若手会員)

- 2) 現場技術者または行政担当者

※研究報告・事例報告の別を問わず、過去に最優秀発表賞の受賞歴がある方は発表賞の審査対象になることはできません。

※登壇者が変更になった場合は審査対象から除外されます。

提出いただいた概要をもとに発表の振り分けを開始いたしますので、簡潔かつ具体的な研究内容を可能な限り明示してください。

#### <研究発表要旨原稿作成要領>

研究発表要旨は、例年どおり大会要旨集(白黒印刷)として発行します。また、大会終了後には要旨集を学会ホームページに掲載(カラー)いたします。

研究発表要旨については査読を行いません。要旨集にもその旨を記載いたします。

- ・A4版用紙, 縦位置, 1枚

- ・余白：左右15mm, 上下18mm

- ・横一段組み, 中央に「講演題目」を和文にて, 14ポイントの文字, 2行以内で記入。

- ・ 題目の下1行空け右寄せで「講演者名, 連名者名, 各々の所属」を, 12ポイントの文字で記入.
- ・ 本文は, 10ポイント・明朝.
- ・ 原稿はそのまま印刷できるイメージのPDFファイルとして作成し, E-mail に添付して tokyo\_22th@ecesj.com宛にお送りください.
- ・ 大会要旨集は白黒印刷ですが, 大会終了後の研究発表要旨についてはカラーで掲載いたします. 図表や写真など白黒印刷でも判別できるように工夫されることをお奨めします.

#### 〔5〕研究発表者資格

研究発表者は, 応用生態工学会の正会員, 学生会員および賛助会員法人に所属する個人とします. なお, 会費を継続して2年以上滞納している場合は滞納額の納入が必要となります.

#### 〔6〕発表賞

ポスター発表, 口頭発表のそれぞれを対象とします. 9月23日(日)午前中に開催される総会の終了後に表彰を行います.

### Call for Presentations

Submission of presentations is now open for the 22<sup>th</sup> Annual Meeting of the Ecology and Civil Engineering Society (ECES) in Tokyo. Categories of presentations are either research reports, case studies or other topics in the field of ecology and civil engineering. Two types of presentation, poster or oral, are acceptable in English along with Japanese. Please submit your presentation in line with the following guidelines.

#### [1] Topics

Acceptable presentations should be research reports and case studies on topics in relation to ecology and civil engineering. Preliminary research reports will be also acceptable, if they are applicable to various fields of ecology and civil engineering.

#### [2] Presentation types

Please notify your preferred presentation type (poster or oral) in your submission. Note that we might ask you to change your presentation type (poster or oral).

#### [3] Duration of oral presentation

Each oral presentation would be ca. 15 minutes long (12 minutes for presentation followed by a 3-minute discussion period).

#### [4] Application for oral or poster presentation

Deadline of submission: 17:00 (JST) , 30 (Sat) June , 2018

To apply for presentation: Please email the following information for application form with your presentation abstract file (1 sheet of A4 paper) together to the Ecology and Civil Engineering Society (ECES) (tokyo\_22th@ecesj.com). Please refer to the abstract sample posted on the ECES website. Instruction for poster & oral presentation and related schedules will be uploaded on the ECES website on the end of July.

<Required items on the application form>

1. Full name of a presenter, his or her professional affiliation and membership number. If the presenter has co-authors, full names of all co-authors, their professional affiliations

and membership numbers (if they have) should also be written.

2. Title of presentation

3. Contact address of a presenter:

Postal and e-mail addresses, tel. & fax. numbers

4. Summary of presentation in 7 lines or 150 words

5. Preferred type of presentation (poster or oral)

6. Category of presentation (research report, case study)

7. Keywords (about 5 words relating to study sites and materials as listed below)

Study sites: Rivers, lakes, reservoirs, brackish waters, seas, forests, paddy fields, dry farmlands, roads, urban areas, rural areas, etc.

Materials: Ecosystem and landscape, terrestrial plants, terrestrial animals, aquatic plants, plankton, benthic animals (invertebrates), birds, fishes, etc.

8. Application for the Presentation Award

Please let us know whether you will apply for the Presentation Award or not.

Presentation Award qualifications:

1) Young society members (undergraduates, graduate students, or postdocs etc.)

2) Field technicians or administrative officers

-Note that members who won the Best Presentation Award at past ECES meetings cannot apply for the Presentation Award.

-If presenter is changed, please let us know as soon as possible. The presentation will be out of grading.

Presentations will be sorted into designated sessions based on the contents of submitted summaries. The summary should be made brief and specific for the purpose. The notification of acceptance and the designated presentation type (poster or oral) will be informed by the secretariat of ECES later.

<Instructions for presentation abstracts>

Presentation abstracts will be issued as an ECES meeting booklet. After the meetings, the contents of the booklet will be posted on the ECES website.

The secretariat will not review abstracts.

Please use 1 sheet of A4 paper.

Right and left margins should be more than 15 mm, and top and bottom margins should be more than 18 mm.

The title of your presentation should be one column and centered. The length of the title should be within 2 lines and the font size should be in 14 points.

Full names of the presenter and co-authors with their affiliations should be inserted right-aligned after inserting one blank column below the presentation title. The font size should be in 12 points.

The main text should be in 10 points. The font should be representative Roman such as Times New Roman.

Please submit a camera-ready manuscript which includes figures and tables. Please send a PDF of the manuscript as an e-mail attachment to [tokyo\\_22th@ecesj.com](mailto:tokyo_22th@ecesj.com). The ECES meeting booklet is printed in black and white. However, the booklet put on the ECES website will be in color. We recommend that you prepare your tables, figures, photos etc. clear in white

and black print setting.

#### [5] Qualification of presenters

Presenters at oral sessions and a main contributor at poster sessions should be the ordinary member, student member or any people belonging to the supporting member company of the ECES (co-authors need not be ECES members).

#### [6] Presentation awards

The Ecology and Civil Engineering Society (ECES) confers "Presentation Awards" at the Annual Meeting to excellent posters and oral presentations. Winners of the Awards will be announced after a general meeting held in September 23 (Sun), 2018.

#### 4. 分科会・自由集会企画募集

今大会でもテーマを絞って議論を深めるために、分科会や自由集会の企画を募集します。議論したいテーマをお持ちの方は積極的にお申し出ください。なお、会場数及び開催時間帯は限られていますので、お早くご連絡ください（平成30年6月30日（土）まで）。なお、会場数に限りがあることから、申込状況により大会事務局において調整させていただく場合があります。

また、自由集会参加者から資料配布の要望が寄せられています。集会当日に配布資料をご用意されることを推奨いたします。数枚程度であれば、大会事務局で用意することも可能ですので、申込時にご相談ください。

(連絡先) E-mail: [tokyo\\_22th@ecesj.com](mailto:tokyo_22th@ecesj.com)

#### 5. エクスカーション

詳細については、現在、企画を進めています。詳細が決まり次第、お知らせします。

#### 6. 懇親会

懇親会は、第3日目9月22日（土）の研究発表（口頭）、分科会、自由集会の終了後に行います。また、毎回好評の「全国からのお土産（お酒・おつまみ）」コーナーも予定しておりますので、会員同士の交流・情報交換の場として、ぜひご参加ください。

##### 【日時】

9月22日（土） 18時ごろから

##### 【会場】

東京工業大学大岡山キャンパス第1食堂（西9号館隣り）

#### 7. 賛助会員の企業展示発表

##### 【展示要領】

- ・企業案内、機材、技術等の展示
- ・申し込み費用：無料
- ・展示期間：9月21日（金）～9月22日（土）の2日間
- ・場所：西9号館2Fメディアホール（予定）

※ 展示を希望する企業は、6月30日（土）17:00までに企業展示発表希望と明示し、企業名、展示内容（種別）を下記の申し込み先メールアドレス宛にお送りください。

企業展示発表申込先：[tokyo\\_22th@ecesj.com](mailto:tokyo_22th@ecesj.com)

#### 8. 大会参加費

##### [1] 研究発表会

正会員・賛助会員：6,000円、非会員：10,000円、学生（学生会員・非会員）：3,000円

参加費には講演要旨集が含まれています。講演要旨集のみ希望の方には、3,000円で販売します。

## 〔2〕 エクスカーション

企画の詳細が決定次第、お知らせします。

## 〔3〕 懇親会

正会員・賛助会員・非会員：5,000円、学生（学生会員・非会員）：3,000円（予定）

懇親会費は当日徴収いたしますが、人数を把握するため、事前にお申し込みください。

## 9. 参加申込み方法

大会参加申込み方法、申込み開始日は ニュースレターの次号（No. 81, 7月下旬配信予定）やホームページでご案内いたします。

## 10. その他

- ・開会期間中の宿泊について、大会事務局として斡旋はいたしません。各自で手配をお願いします。
- ・大会期間中の昼食について、大学食堂の営業の有無について確認中です。会場周辺には、食堂やスーパーマーケット、コンビニエンスストアもあります。また、9月21日(金)～23日(日)は、お弁当(1食1,000円程度)の準備も可能です。必要な方は、大会参加申込時にお申し込みください。

## 11. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：tokyo\_22th@ecesj.com

## 3 第11期各委員会委員決まる

第10期の各委員会委員の任期が2018年3月31日で満了となるため、学会規約第18条第2項の規定に基づいて、会長から第11期の各委員会委員について委嘱を行った。

第11期の各委員の任期は、2018年の各委員の所属する機関の承認日から2020年3月31日までである。

### (1) 会誌編集委員会

委員長・担当役員：(新) 萱場 祐一 国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ，学会理事

副委員長：(新) 尾花まき子 名古屋大学大学院工学研究科，学会幹事

(再) 西 浩司 いであ(株)国土環境研究所，学会理事

(新) 三宅 洋 愛媛大学大学院理工学研究科

委員：(再) 赤松 良久 山口大学大学院創成科学研究科，学会幹事

(再) 池内 幸司 東京大学大学院工学系研究科，学会理事

(新) 石澤 伸彰 応用地質(株)，学会幹事

(再) 石山 信雄 北海道大学大学院農学研究院

(再) 一柳 英隆 (一財)水源地環境センター

(再) 井上 幹生 愛媛大学大学院理工学研究科

(新) 上野 裕介 石川県立大学，学会幹事

(再) 卜部 浩一 北海道立総合研究機構水産研究本部さげます・内水面水産試験場

(再) 大森 浩二 愛媛大学社会共創学部，学会理事

(新) 奥田 晃久 国土交通省水管理・国土保全局，学会幹事

- (再) 鬼倉 徳雄 九州大学大学院農学研究院, 学会幹事  
 (再) 加賀谷 隆 東京大学大学院農学生命科学研究科  
 (再) 柿野 亘 北里大学獣医学部  
 (新) 笠原 玉青 九州大学大学院, 学会幹事  
 (新) 片野 泉 奈良女子大学大学院, 学会幹事  
 (再) 河口 洋一 徳島大学大学院社会産業理工学研究部, 学会副幹事長  
 (再) 小出水規行 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門  
 (再) 佐川 志朗 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科  
 (再) 田代 喬 名古屋大学減災連携研究センター  
 (新) 傳田 正利 国立研究開発法人土木研究所, 学会幹事  
 (再) 東城 幸治 信州大学理学部  
 (再) 永山 滋也 岐阜大学流域圏科学研究センター, 学会幹事  
 (再) 西廣 淳 東邦大学理学部  
 (再) 根岸淳二郎 北海道大学大学院地球環境科学研究院  
 (再) 比嘉 基紀 高知大学理工学部  
 (再) 星野 義延 東京農工大学大学院農学研究院  
 (新) 皆川 朋子 熊本大学大学院, 学会幹事  
 (再) 森 誠一 岐阜経済大学経済学部  
 (再) 山下 奉海 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター  
 (新) 山田 浩之 北海道大学大学院, 学会幹事  
 (再) 吉村 千洋 東京工業大学環境・社会理工学院

(2) 普及・連携委員会

- 委員長：(新) 河口 洋一 徳島大学大学院社会産業理工学研究部, 学会副幹事長  
 委員：(新) (札幌) 渡邊 恵三 (株)北海道技術コンサルタント技術部  
 (再) (仙台) 佐藤 高広 (株)復建技術コンサルタント都市・環境部, 学会幹事  
 (再) (東京) 久保市浩右 応用地質(株)地球環境事業部  
 (新) (新潟) 原文宏 (株)建設技術研究所北陸支社  
 (再) (長野) 元木 達也 (株)環境アセスメントセンター北信越支社  
 (新) (富山) 林 達夫 大日本コンサルタント(株)北陸支社  
 (新) (金沢) 平野 博範 (株)国土開発センター環境事業部  
 (再) (福井) 高嶋 義和 ジビル調査設計(株)  
 (新) (名古屋) 望月 洋輔 いであ(株)名古屋支店環境技術・生態部  
 (再) (大阪) 渡辺 敏 (株)ウエスコ関西支社  
 (再) (岡山) 藤谷 俊仁 (株)建設環境研究所岡山事務所  
 (再) (広島) 山原 康嗣 中電技術コンサルタント(株)環境部  
 (再) (松山) 川越 幸一 (株)建設環境研究所高松支店  
 (新) (福岡) 齋藤 剛 西日本技術開発(株)環境部  
 (再) (那覇) 宮良 工 (株)沖縄環境地域コンサルタント

市民連携担当委員：

- (新) 赤坂 卓美 帯広畜産大学環境農学研究部門  
 (新) 乾 隆帝 山口大学工学部

- (新) 田代 優秋 和歌山大学  
 (再) 中井 克樹 滋賀県立琵琶湖博物館  
 (再) 森 誠一 岐阜経済大学経済学部  
 (再) 山下 慎吾 魚と山の空間生態研究所  
 (再) 吉富 友恭 東京学芸大学環境教育研究センター

担当役員：(新) 武藤 裕則 徳島大学大学院社会産業理工学研究部，学会理事

### (3) 国際交流委員会

- 委員長：(新) 渡辺 幸三 愛媛大学大学院理工学研究科  
 委員：(新) 篠原隆一郎 国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター  
 (新) 兵藤 誠 いであ(株)大阪支社水圏部  
 (新) 藤野 毅 埼玉大学理工学研究科  
 (再) 根岸淳二郎 北海道大学大学院地球環境科学研究院  
 (新) 八重樫咲子 山梨大学総合研究部

担当役員：(新) 浅枝 隆 埼玉大学大学院理工学研究科，学会副会長

### (4) 情報サービス委員会

- 委員長：(再) 沖津 二郎 応用地質(株)応用生態工学研究部  
 委員：(新) 石澤 伸彰 応用地質(株)，学会幹事  
 (新) 大杉 奉功 (一財)水源地環境センター  
 (新) 久加 朋子 北海道大学工学研究院

担当役員：(新) 藤田 乾一 (株)大林組土木本部，学会理事

### (5) 技術援助委員会

- 委員長：(新) 関島 恒夫 新潟大学農学部

担当役員：(新) 浅見 和弘 応用地質(株)技術本部技師長室，学会理事

### (6) 将来構想委員会

委員長・担当役員：(再) 中村 太士 北海道大学大学院農学研究院、学会理事

- 委員：(再) 浅見 和弘 応用地質(株)技術本部技師長室，学会理事  
 (再) 田代 喬 名古屋大学減災連携研究センター  
 (再) 西 浩司 いであ(株)国土環境研究所，学会理事  
 (再) 根岸淳二郎 北海道大学大学院地球環境科学研究院  
 (再) 三宅 洋 愛媛大学大学院理工学研究科

### (7) テキスト刊行委員会

- 委員長：(再) 河口 洋一 徳島大学大学院社会産業理工学研究部，学会副幹事長

- 委員：(新) 岩瀬 晴夫 (株)北海道技術コンサルタント川づくり計画室  
 (新) 奥田 晃久 国土交通省水管理・国土保全局，学会幹事  
 (新) 鬼倉 徳雄 九州大学大学院農学研究院，学会幹事  
 (再) 尾花まき子 名古屋大学大学院工学研究科，学会幹事  
 (再) 関根 秀明 (株)建設技術研究所東京本社，学会幹事  
 (新) 永山 滋也 岐阜大学流域圏科学研究センター，学会幹事

(再) 根岸淳二郎 北海道大学大学院地球環境科学研究院  
 (再) 皆川 朋子 熊本大学大学院先端科学研究部, 学会幹事  
 (新) 三宅 洋 愛媛大学大学院理工学研究科  
 (新) 和田 彰 日本河川・流域再生ネットワーク 事務局  
 担当役員: (再) 萱場 祐一 国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ, 学会理事

#### 8. 事務局改善ワーキンググループ

委員長・担当役員: (再) 森北 佳昭 (一財)水源地環境センター, 学会理事  
 委員: (再) 浅見 和弘 応用地質(株) 技術本部技師長室, 学会理事  
 (新) 奥田 晃久 国土交通省水管理・国土保全局, 学会幹事  
 (再) 久保田 勝 東北電力(株), 学会副会長  
 (再) 杉本 龍志 (株)建設技術研究所東京本社  
 (再) 西 浩司 いであ(株)国土環境研究所, 学会理事  
 (新) 藤田 乾一 (株)大林組土木本部, 学会理事

備考) \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_: 各委員会の担当役員

## 4 2018年度海外学会等への派遣者の選考結果報告

国際交流委員会委員長 渡辺幸三

国際交流委員会では、2018年度海外学会等への派遣員の募集を行った。3月31日を応募期限として学会ホームページ、ニュースレター、メーリングリストによる募集を行った結果、1名の研究者から応募があった。4月に開催した国際交流委員会において、応募者1名の応募内容を規定の審査基準で審査した結果、派遣者として決定することが承認された。

#### 2018年度海外学会等への派遣者

氏名: 木村 咲稀 (所属: 名古屋大学院環境研究科都市専攻 大学院生)

派遣先: Joint Meeting Ichthyologists and herpetologists in Rochester 2018 (アメリカ, ニューヨーク)

学会開催日: 2018年7月11日~15日

助成額: 20万円

## 5 行事開催報告

### 5.1 地域勉強会 in 福井の報告 グリーンインフラの推進に向けて

応用生態工学会福井 森田 弘樹 (株式会社サンワコン)

#### 1)はじめに

今回の勉強会は、最近耳にすることの多いグリーンインフラについて学び、今後の展開について考えることを目的として開催しました。勉強会は平成30年1月31日に福井県福井市の国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所を会場として開催し、技術者や行政担当者、研究者、地域住民など55名の方

にご参加をいただきました。

当日は、司会の田安正茂氏（福井工業高等専門学校 准教授）の進行の下、最初に田原大輔氏（福井県立大学 准教授）から本勉強会の趣旨説明があり、続いて以下の講演が行われました。

## 2) グリーンインフラの考え方とその活用

上野裕介氏（石川県立大学生物資源環境学部環境科学科 准教授）

本講演ではまず、グリーンインフラについて、自然が持つ多様な機能を活用する考え方であり、「自然を賢く使う、自然と賢く付き合う」概念であること、グリーンインフラは多機能かつ持続的であり、複数のメリットを享受するという特徴を持つことなどをご説明いただきました。



上野裕介氏

また、グリーンインフラは近年問題が顕在化しているインフラの老朽化や、頻発する災害への対応策となりうるものであり、対義語であるグレーインフラと両方を併用したハイブリッドインフラの実用化が今後の実践にあたっては重要であるとの指摘がありました。

グリーンインフラの具体的な事例としては、利根川の河川敷を遊水地として整備しつつ、平常時は水田として利用し、普段の遊水地の管理を農業者が実施することで管理費用を抑制していることが紹介されました。また、札幌市の大通り公園は元々は防火帯として設けられたものですが、オープンスペースとしてイベントや観光にも活用されており、災害時にも平常時にも便益を得られるという特徴が発揮されているそうです。

今後のグリーンインフラの活用については、環境と経済の好循環を生み出すことを目指すべきであり、そのためにはグリーンインフラが多機能であることを十分に活用し、また河川や道路、農業、林野といった分野ごとに事業を進めるのではなく、まちづくりや地域づくりを総合的に推進することや、ハードとソフトの連携といった視点が必要とのお話がありました。最後に、自然の豊かな福井県でグリーンインフラをぜひ推進してほしい、との呼びかけがありました。

## 3) グリーンインフラの実践としての河川管理を考える

中村圭吾氏（国土交通省福井河川国道事務所 所長）

本講演では、河川でのグリーンインフラについて具体例を交えてご講演をいただきました。まず、スペインの河川で、減反政策に伴う農地の縮小と合わせて引き堤を実施し、洪水対策と環境対策を一体で実施したことが紹介されました。また、福井県内でのグリーンインフラの事例として、1級河川である北川の霞堤が紹介されました。北川には11箇所の霞堤があり、洪水流を堤内地の水田に一時的に貯留し、下流への負担を軽減する働きがあるそうです。これは破堤といったカテゴリーの災害を回避する土地利用を活用した粘り強い防災であり、これもグリーンインフラの事例として捉えられるとの説明がありました。



中村圭吾氏

また、グリーンインフラの実践にあたっては、自然再生の技術という「環境」の視点と、自然を活かした防災技術という「社会」の視点に、経済的にもプラスの効果を生み出すという「経済」の視点を加えた3つの評価軸を持つことが必要との指摘がありました。

最後に、グリーンインフラの推進に資する技術として、自然環境の多面的価値を費用便益分析に取り込むことや、グリーンレーザーによって得た精細な河川の3次元地形と、人工知能を用いたディープラーニングによる画像認識を組み合わせることで生息場情報の把握を容易にするとともに、環境DNAの技術を用いた定性・定量的な生物情報を組み合わせることにより、河川環境管理の高度化を図るといった

展開についてもお話があり、今後の展開に大変興味が湧きました。

4) 水田地帯における生物多様性—湿地造成の提案—

松井明氏 (京福コンサルタント株式会社設計二部 主幹)

本講演では、圃場整備済みの水田地帯の用水・排水路系における魚類と水生昆虫の分布を、水路の構造と非灌漑期における流水の有無に注目して研究した成果をご紹介いただきました。現地での調査は月に1回、継続して実施したそうで、水路内に生息するオイカワやドジョウの体長分布、トンボ類の頭幅分布の季節変化や世代交代の様子、生息環境の選好性などが示されました。



松井明氏

調査の結果から、水田地帯に生息する水生動物の保全のためには、越冬地となる排水路系の下流部で湛水を維持することが重要であり、そのため湿地の造成が保全策として効果的であるとの提案がありました。またこのような湿地の造成は公益性の強い事業であるため、管理を農業者に押し付けるのではなく、行政が中心となって支援策を講じるべきであることや、湿地の適切な面積や設置間隔、水管理の方法などについて応用生態工学会福井で研究に取り組むことが提案されました。そしてこのような研究は、福井県内で野生復帰に向けた取組みが続けられているコウノトリの定着や、世界の水田地帯における生物多様性の保全にも貢献しうる、とのご指摘がありました。

5) リノベーションにおけるグリーンインフラ活用の可能性

出水建大氏 (株式会社建大工房 代表取締役)

ご講演いただいた出水氏は工務店を経営されており、建物のリノベーションなどに取り組んでおられます。人が集まる場所をつくることやカフェがお好きなため店舗のリノベーションを多く手掛けておられ、特に廃材や自然素材を活用して建物を改修することが多いそうです。廃材を利用する際には、廃材を素材に見立てたり、加工して使う感性と技術が重要であり、それを可能とする職人の存在をもっと評価すべき、とのお話がありました。



出水建大氏

また、廃材の利用には運搬などにお金をかけるべきではなく、廃材の集積場所はどの地域にもあるべきとの考えから、福井県坂井市丸岡町に建物の取り壊しの際などに出る廃材を集積し、素材として販売する廃材ホームセンター「CRAFTWORK CENTER」を設立、運営されているそうです。そして「地捨地産」や「サーキュラーエコノミー」をキーワードとして、ごみを使って人が集まる「コミュニティ」を作りたいと考えており、そのためには地域のすべての資源を利用し、自分も資源の一部になるといった姿勢が必要であるとお話をいただきました。

この他、福井県を含めた北陸地方には製造業や伝統工芸など、ものづくりの伝統があることに加え、分かりやすい刺激や遊び、観光資源が少なく、まちがコンパクトであるという特徴があり、このため楽しみはあるが見つけにくく、ものごとにじっくりと取り組むのに適していることから、北陸はものづくりに適している、とのご指摘が印象的でした。また、この風土についてとことん考察し、利用するという考え方は、グリーンインフラに通じる考えであると思いました。

6) 総合討論～グリーンインフラを持続可能な地域づくりにつなげるために～

総合討論では、ご講演をいただいた4名の講師の方を中心に、田中謙次氏 (株式会社田中地質コンサルタント 代表取締役) の巧みなファシリテーションの下、会場の参加者も交えて議論が行われました。

議論のテーマとしては、人口対策や地域力の向上、まちのコンテンツ、観光といった切り口が示され、それぞれの場面でのグリーンインフラの可能性について議論が進められました。

議論の内容は大変興味深く、グリーンインフラは地域づくりの土台となるべきもので、その活用にはソフト面の取組みも重要であり、多様な主体が参加できる仕掛けづくりが必要であることや、グリーンインフラという言葉は固い印象を受けるので、一般の人に分かりやすいようにアピールすることや、ブランディングしていくことも大事といった意見がありました。



総合討論の様子

また、グリーンインフラの事業化を進めるためには地域の風土を活かす視点が必要であり、例えば福井市はJR福井駅のある中心市街地から歩いて行ける距離に足羽川と足羽山があり、まちのコンテンツになりうるといった指摘がありました。この他、福井には企業や行政などの組織にとらわれない人のネットワークがあるので、そのようなつながりを活かして、「これぞグリーンインフラ」という事業を立ち上げてほしい、とのエールもいただきました。

7)おわりに

今回の勉強会を通して、グリーンインフラの考え方を学び、福井県内での実践の可能性とその課題について議論することができ、大変有意義でした。今後の展開が楽しみです。

最後に、今回の勉強会を共催いただきました(公財)福井県建設技術公社、ご後援いただきました国土交通省福井河川国道事務所、福井県、福井市、ふくい里川研究会、福井新聞社、ご協力いただきました福井工業高等専門学校、福井県立大学、そして日頃から応用生態工学会福井の活動にご参加いただいている県内のコンサルタント、建設資材メーカー、建設会社、NPO、行政等の技術者の皆様に厚く御礼申し上げます。

## インフラに自然活用

### 福井で勉強会 60人知識深め

県内の生態学や土木工学の研究者でつくる応用生態工学会福井は31日、自然環境が持つ機能を社会資本に活用する「グリーンインフラ」の推進に向けた勉強会(福井新聞社後援)を福井市の国土交通省福

井河川国道事務所が開いた。土木関係企業や行政機関から約60人が参加し、知識を深めた。グリーンインフラは欧米発の考え方で、コンクリートなどの人工物を使った「グリーンインフラ」に比べ人や自然に

グリーンインフラについて学んだ勉強会  
=31日、国土交通省福井河川国道事務所

やさしく、維持管理費用が安いなどとされる。グリーンインフラを学び、人と自然環境がより良い関係を保った地域づくりに結びつけてもらおうと企画した。

勉強会では石川県立大の上野裕介准教授ら4人が講演した。上野准教授はインドネシアでスマトラ沖地震が発生した際、マンクローア林があった場所の被害が少なかったことなどを紹介。「豊かな自然をインフラに活用することは防災機能を高める。自然を壊さず活用して残すことが人間の暮らしを守るにもつながる」と強調し、グリーンインフラ推進を訴えた。

講演後には参加者らによる意見交換会も行われた。

(黒田美紗)

勉強会の様子を伝える新聞記事(福井新聞、平成30年2月3日掲載)

## 6 応用生態工学会連続セミナー 開催報告

事務局改善WG

### 第5回 未来の環境を語り・考える会

応用生態工学会では、賛助会員をはじめとする会員の皆様が、環境に係る行政や学識者と意見交換を行い、日ごろの事業や研究、将来の国土保全に役立てていただきたいと考え、平成27年12月より連続セミナーを開催しています。今回は第5回目となり、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 奥田晃久河川環境保全調整官から、「河川環境の整備・保全、河川行政が建設コンサルタントに望んでいること」についてご講演いただきましたので、概要をご紹介します。

日時：平成30年4月20日（金）16:30～18:00

場所：一般財団法人 水源地環境センター 会議室

参加者：賛助会員19社、個人会員 計34名

テーマ：「河川環境の整備・保全、河川行政が建設コンサルタントに望んでいること」

講演者：国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 奥田晃久河川環境保全調整官

司会：応用生態工学事務局改善WG 浅見和弘

#### 【講演概要】

司会からの開催の趣旨説明の後、奥田調整官から約70分間のご講演がありました。そのうちの主な内容をご紹介します。

#### (1) 河川法改正20年 多自然川づくり推進委員会の概要について

提言『持続性ある実践的多自然川づくりに向けて』

- ・常に「現場視点」を持つこと、あわせてまずは順応的に実践してみることに。
- ・環境目標設定の手法と今後の展開として、環境の相対評価の良好な場を選定し、相対評価の低い場を良好な場に出来る限り近づけていくことを実践していく。

#### (2) 多自然川づくりに向けて

- ・多自然川づくりには「維持管理」の視点も重要。
- ・本省河川環境課から「多自然川づくり」優良事例集を以下に示すHPに掲載。  
<http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyotashizen/04.html>
- ・技術基準の更新および多自然川づくりのポイントをタイムリーに提供していきたい。

#### (3) 生態系ネットワークについて

- ・魚道設置など河川の連続性確保は進み、今後は本川と支川の連続性を考えていきたい。
- ・コウノトリを旗印に、地域全体を元気にしていきたい。
- ・川の中だけを考えるのではなく、コウノトリの餌となるドジョウ等が生息できる無農薬の水田環境の維持、冬場でも水を貯める冬水たんぼの確保、地域住民による清掃活動、収穫したお米のブランド化等を通じて、観光客・若手営農者が増加する等、元気な地域づくりを支援したい。
- ・そのためには、農林水産省や環境省と連携し、実現可能性調査 (feasibility study) から進めしていきたい。

#### (4) かわまちづくりとミズベリングについて

- ・民間事業者が水辺を活用し水辺の賑わいを創出できるような枠組みとして、かわまちづくり支援制度を進めている。
- ・エリアマネジメントも活用し一体感も出していきたい。
- ・ミズベリングは、水辺に参加する人を増やすためのソフト的なプログラム。

#### 【質疑応答】

質問1：環境の相対的に悪い箇所を良いところ出来る限り向上させていく環境目標の設定手法の考え方が一方、かわまちづくり等の水辺周辺の積極的な利活用を進めていく考え方があり、現場の職員もこれらの考えについて理解されていると考えてよろしいでしょうか？

応答1：これまでは河川環境の好きな職員がマニアック的に進めてきたこともあった。「好き」は大事なことではあるが、仕事のルーティンに組み込むことも重要。より一層この取り組みを広げていきたい。

質問2：国交省では、川の利活用を進めて行く方向で考えていることは理解しましたが、河川の維持管理を担当する事務所レベルではどのようなお考えで進めておられますか？

応答2：これまでは、自由使用や治水のため、占用申請に対して基本的に「ノー」という河川管理が王道でした。今後はそのマインドを変えていきたい。河川の占用箇所について、このような条件であれば貸すことができる等の河川占用等許認可の見える化を進めたい。

質問3：河川行政が今建設コンサルタントに望んでいることはありますか？

応答3：建設コンサルタントには、地域がどういう状況にあり、地域のやりたいこと、既にやっていることを考慮した提案をお願いしたい。また、河川だけを見るのではなく、河川を通じて地域の向上に貢献できる事項を提案いただきたい。

質問4：かわまちづくり施策の資料において、多自然かわづくり、自然再生、生態系ネットワーク、ミズベリングなどが全てかわまちづくりに含まれるという整理を見た記憶がある。本日のご講演では独立の施策に感じたが、各施策の関係性があればご教示頂きたい。利用する概念と河川環境保全の考え方とはうまく折り合えるのでしょうか？

応答4：かわまちづくりは、「河川を整備するときには、かわとまちが一体となって整備を進めるべし」というコンセプトである。そこに多自然かわづくりを持ち出すとわけがわからなくなるかもしれない。多自然かわづくりは、今は左右岸のバランスをとることと同様のかわづくりの鉄則である。「生態系ネットワーク」は、ちょっとした河川環境整備事業をテコに、地域全体で、地域の活性化を促す取り組みである。ミズベリングは、水辺を利用する人を増やし、水辺の使い方を増やす、ということをも目的とした旗印で、斬新な取り組みや楽しみながらの取り組み、今まで出来なかったことをやろうという意気込みが含まれる大きなコンセプトと考えている。

利用と環境保全は決して相反する概念ではないと考えている。

質問5：自然環境系の建設コンサルタントの出番が、ここ最近減っているように感じるが、自然環境系の若手コンサルタントへメッセージをいただけますでしょうか？

応答5：これまでは自然環境系中心で施策を展開してきた。今後は利用面にもフォーカスして施策を展開していきたい。一方で、環境の目標設定において、河川環境を評価するためには現場をしっかりと見ていく力が必要である。さらに、設定した環境目標は、評価の低い箇所を自然環境の良い箇所へ近づけていくための合意形成ツールとして活用していきたい。こういう面でのスキルも身につけて頂ければ。

今回のご講演を通じて、奥田河川環境保全調整官の想いをしっかりと受け止め、「今の時代に求められる河川環境のあり方」について考えていくことが大切なのではと思いました。

最後になりましたが、本セミナーの会場をご提供いただきました（一財）水源地環境センター森北理事長に感謝申し上げます。

（文責） 事務局改善WG委員 杉本 龍志



ご講演中の奥田河川環境保全調整官



講演会場風景

## 7 理事会・幹事会報告

### 7.1 第92回理事会報告

第92回理事会が本年3月2日（金）に東京都千代田区麹町の弘済会館において開催された。

なお、これに先立って、昨年12月14日（火）に第76回幹事会が学会事務局において開催され、第92回理事会に付議する事項について審議が行われた。

第92回理事会での主な議事と審議結果は次のとおり。

#### ①会誌編集委員会報告

- ・J-STAGEでの論文公開の原則（論文掲載後2年間は会員以外には非公開）の見直しに関し、早期の公開を求める会誌編集委員会の意見（論文発表者の立場としては公開が遅いと投稿の意欲が低下す

る、非会員で応用生態工学会の動向に関心を持っている人たちに働きかける上でも必要、会誌としての魅力が増す等)、これを支持する幹事会の意見(学会名に「応用」が入っているように研究成果が即社会に還元される可能性の高い論文のウエイトが高いので早期公開の意味がある、2年間非公開としていることが応用生態の論文が引用されることが少ない一因ではないか等)、他学会の動向(直ちに公開が日本生態学会(学会誌)、日本景観生態学会、日本緑化工学会、日本湿地学会他、2年間一般非公開が日本鳥学会、日本魚類委学会他)を付して、理事会で審議した結果、論文の早期公開による会員減などのデメリットを懸念する意見も出されたが、最終的に J-STAGE での論文公開の2年間縛りを廃止することが了承された。

## ②普及・連携委員会報告

- ・普及・連携委員会からの普及・連携委員会予算 100 万円について、地域活動助成金 60 万円(現行 30 万円)、委員会旅費 40 万円(現行 70 万円)としたいとの要望に対し、普及・連携委員会予算内の配分であり、旅費について過去の実績を反映していることから了承された。

## ③国際交流委員会報告

- ・2017 年度海外学会等への派遣者募集に際して、当初の募集期間内に応募 SY がなかったことを踏まえると、若い会員に対しては、募集案内を掲載しているホームページやニュースレターより、例えばツイッター等の活用が効果的との意見があり、今後国際交流委員会で検討することとした。

## ④事務局改善WG報告

- ・学会の財務状況等の現状、会員の加入促進策、来年度の賛助会員向けセミナーの開催について報告があり、以下の事項について具体化を図ることとした。
  - i) 繰越金について、中期計画に準拠して、例えば大規模災害調査のような不定期な支出に対して活用する仕組みを検討する。
  - ii) 大会の研究発表資格を見直す。(従来、学生の発表については連名者に会員がいれば非会員でも発表可であるが、今後は学生についても会員であることを条件とする。)
  - iii) 学会活動を広く一般に紹介し、会員を勧誘するチラシ「応用生態工学会のご案内」には、20 年が経過した現在も発足趣意書が使用されており、応用生態工学を取り巻く最新の知見を取り入れたものに差し替えるほか、デザイン等を一新する。
  - iv) 学生会員の卒業時における正会員への転格については、初年度に限り学生会員会費に据え置く。
  - v) 地域活動に際して、地域の助成金の確保状況に地域差が大きいため、助成金確保のノウハウを普及・連携委員会で共有して一層の拡大に努める。
  - vi) 賛助会員サービスの展開として2015年度から開始した「応用生態工学会連続セミナー 未来の環境を語り・考える会」は、環境に係る行政や学識者との意見交換の場を提供することを目的に、これまで4回開催されており、2018年度は複数回の開催を検討している。

## ⑤第22回大会(東京大会)の企画

- ・第22回大会の企画(日程、公開シンポジウムのテーマ案、会場、実行委員会等)に関して原案どおり承認された。

## 8 2017年度行事経過と2018年度行事予定

### 2017年度(平成29年度)行事経過

4.1	2017年度(平成29年度)開始
4.1~30	2017年度海外学会等への派遣者の募集(募集期間延長)
4.9	第3回北信越技術研究会 (神通川、富山県民会館)
4.12	ELR2017名古屋 第2回実行委員会 (名古屋大学大学院環境学研究科)
4.13	第1回次期役員募集・推薦委員会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
5.1~12	国際交流委員会(メール会議)
5.25	第72回幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
5.27~31	国際交流委員会(メール会議)、2017年度海外学会等への派遣者決定
5.30	ニュースレター76号発行
6.1~30	次期(第11期)役員候補募集
6.10	応用生態工学会長野・河川生態学術研究会共同シンポジウム (信州大学繊維学部) 上下流の連続性を考える一千曲川をフィールドとした生物生産研究の紹介
6.14~23	国際交流委員会(メール会議)
6.23	会誌編集委員会編集幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
6.29	第87回理事会 (TKP 四ツ谷第一)
6.29	地域研究会「応用生態工学会岡山」設立
7.6	第2回次期役員募集・推薦委員会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
7.8	ELR2017名古屋 第3回実行委員会 (名古屋大学大学院環境学研究科)
7.25~27	第3回次期役員募集・推薦委員会(メール会議)
7.29	応用生態工学会 平成29年7月九州北部豪雨災害調査団の結成
8.1	第73回幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
8.16	ニュースレター77号発行
8.30	第88回理事会 (麴町: 弘済会館)
9.2	第3回ミュージアム連携ワークショップ in 岸和田 (岸和田阪南2区人工干潟、きしわだ自然資料館)
9.13	平成29年7月九州北部豪雨災害報告会(主催:九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団)において、応用生態工学会 平成29年7月九州北部豪雨災害調査団が「持続的で豊かな暮らしと環境を再生するための緊急提言」を発表 (九州大学伊都キャンパス)
9.22~25	第21回大会/ELR2017名古屋 (名古屋大学東山キャンパス) 9月22日(金): 研究集会 9月23日(土): 研究発表(口頭発表、ポスター発表)、研究集会、技術・製品紹介、ICLEE 8th Conference 口頭発表、国際シンポジウム、懇親会 9月24日(日): 研究発表(口頭発表、ポスター発表)、技術・製品紹介、第21回総会、公開シンポジウム 9月25日(月): エクスカーション
9.22	会誌編集委員会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	国際交流委員会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	普及・連携委員会 (名古屋大学環境総合館)
9.22	第74回幹事会 (名古屋大学環境総合館)

9. 22	第 89 回理事会	(名古屋大学環境総合館)
9. 22	第 6 回河川砂防技術基準 (調査編) をもとにした意見交換会	(名古屋大学環境総合館)
9. 24	第 21 回総会	(名古屋大学環境総合館)
9. 24	第 90 回理事会・第 75 回幹事会合同役員会	(名古屋大学環境総合館)
9. 30	会誌「応用生態工学」Vol. 20-1 (20 周年記念特集号) 発行	
10. 16	応用生態工学会名古屋 フィールドシンポジウム in 木曾川 ～河川環境の保全・再生を目指して～	(一宮市商工会議所)
10. 20～21	第 16 回北信越現地ワークショップ in 石川「流域の連続性の回復～小さな自然再生から 流域の地域再生を目指して～」	(金沢市 IT ビジネスプラザ武蔵)
11. 6	応用生態工学会 第 22 回大会準備会	(東京工業大学大岡山キャンパス)
11. 7	<共催>応用生態工学会広島・土木学会水工学委員会環境水理部会ジョイントシンポジ ウム～ダム貯水池の水環境に関する現状と将来 (第 2 回) in 松江～	(松江市 松江テルサ)
11. 12～16	第 91 回理事会 (メール会議)	
11. 20	<共催・河川生態学術研究会>第 20 回河川生態学術研究発表会	(東京都中央区 浜離宮朝日ホール)
12. 2	応用生態工学会富山 平成 29 年度勉強会	(氷見市 ひみラボ水族館)
12. 6～7	<共催・「小さな自然再生」研究会>応用生態工学会大阪, 岡山 第 7 回「小さな自然 再生」現地研修会	(岡山県西栗倉村)
12. 13	<共催・日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) >2017 年度国際シンポジウム「不確 実性を増す気候および環境ストレス下での河川流域管理ーアジアにおける洪水リスク対 策と環境保全ー」	(東京工業大学大岡山キャンパスレクチャーシアター)
12. 14	第 76 回幹事会	(麴町：応用生態工学会事務所)
12. 28	ニュースレター78号発行	
1. 18	応用生態工学会 第 22 回大会第 1 回実行委員会	(東京工業大学 大岡山キャンパス)
1. 25	<共催・北海道大学農学院農学研究院>応用生態工学会札幌 シンポジウム「川と魚、 人間社会のつながり」	(北海道大学農学研究院動物生態学研究室)
1. 27	<後援・札幌ワイルドサーモンプロジェクト>応用生態工学会札幌 札幌ワイルドサー モンプロジェクト 市民フォーラム 2018「サケは、めぐる ～Salmon Go Around～」	(札幌エルプラザ 4F ホール)
1. 27	普及・連携委員会	(阿南市 ひまわり会館)
1. 27～28	<共催・国土交通省 那賀川河川事務所>第 9 回全国フィールドシンポジウム in 阿南 ～砂レキが復活し、清流にアユが躍る那賀川づくり～	(阿南市 ひまわり会館)
1. 31	<共催・(公財) 福井県建設技術公社>応用生態工学会福井 平成 29 年度地域勉強会 ～グリーンインフラの普及に向けて～	(国土交通省 福井河川国道事務所)
1. 31	応用生態工学会福岡 第 7 回遠賀川中島自然再生研究会	(遠賀川水辺館めだかホール)
2. 14	ニュースレター79号発行	
2. 17	2017 年度第 1 回事務局改善WG	(麴町：応用生態工学会事務所)
2. 28	会誌「応用生態工学」Vol. 20-2 発行	
2. 19～3. 31	2018 年度海外学会等への派遣員の募集	
3. 2	第 92 回理事会	(麴町：弘済会館)

3.31	2017年度(平成29年度)終了
------	------------------

### 2018年度(H30年度)行事経過と今後の予定

4.1	2018年度(平成30年度)開始
4.9~16	国際交流委員会(メール会議), 2018年度海外学会等への派遣者決定
4.20	応用生態工学会連続セミナー 第5回「環境の未来を考え・語る会」 (一財)水源地環境センター
4.23	応用生態工学会 第22回大会第2回実行委員会 (東京工業大学 大岡山キャンパス)
5.25	第77回幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
6.4	ニュースレター80号発行
6.7	会誌編集委員会編集幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
6.19	第93回理事会 (麴町: 弘済会館)
7月	応用生態工学会 第22回大会第3回実行委員会 (東京工業大学 大岡山キャンパス)
7月	会誌「応用生態工学」Vol.21-1 発行
7月	ニュースレター81号発行
7月	幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
8.19~24	<後援・International Association for Hydro-Environment Engineering and Research (IAHR) > 12 <sup>th</sup> International Symposium on Ecohydraulics (ISE2018) (日本大学理工学部駿河台キャンパス)
8月	理事会
8月	応用生態工学会名古屋 セミナー
9月	応用生態工学会 第22回大会第4回実行委員会 (東京工業大学 大岡山キャンパス)
9.20~23	応用生態工学会 第22回大会 (東京工業大学大岡山キャンパス) 9月20日(木): エクスカーション 9月21日(金): 研究発表(ポスター発表)、分科会、自由集会 9月22日(土): 研究発表(口頭発表)、分科会、自由集会、懇親会 9月23日(日): 午前: 役員会、第22回総会 午後: 公開シンポジウム
9.21	会誌編集委員会 (東京工業大学大岡山キャンパス西9号館)
9.21	国際交流委員会 (東京工業大学大岡山キャンパス西9号館)
9.21	普及・連携委員会 (東京工業大学大岡山キャンパス西9号館)
9.21	幹事会 (東京工業大学大岡山キャンパス西9号館)
9.21	理事会 (東京工業大学大岡山キャンパス西9号館)
9.23	第22回総会 (東京工業大学大岡山キャンパス西9号館)
10月上~ 中旬	応用生態工学会金沢 地域勉強会
11.9~10	第17回 北信越現地ワークショップ in 福井 (福井県立大学 講堂)
11月	応用生態工学会 第10回全国フィールドシンポジウム in 浜松(仮)
12月	ニュースレター82号発行
12月	幹事会 (麴町: 応用生態工学会事務所)
2月	会誌「応用生態工学」Vol.21-2 発行
2月	ニュースレター83号発行

2月	理事会
2月～3月	2019年度海外学会等への派遣員の募集
3.31	2018年度（平成30年度）終了

## 9 事務局より

### 9.1 いつもながらの勤務先等の会員情報変更登録のお願い

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス E-mail: [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。よろしくお願いたします。

### 9.2 既刊学会誌を希望する会員に頒布します（郵送料は負担してください）

学会事務局では、既刊学会誌の在庫整理を進めています。今後は一定の冊数を確保して、残りは希望者への頒布、廃棄を考えています。希望者多数の場合は、先着順です。

希望される会員は、学会事務局のアドレス E-mail: [eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com) までお知らせください。申込者には、事務局から郵送料を計算してお知らせします。郵送料をいただいた後、発送します。

### 9.3 会員数および LEE 購読者数

2018年4月24日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数	対前年同時期比較
名誉会員	8名	増減なし	1名	増減なし
正会員	903名	増 31名	80名	減 5名
学生会員	113名	増 26名	2名	増 1名
合計	1,024名	増 57名	83名	減 4名
賛助会員	38法人 (55口)	増 1法人 (1口)		